

第44回全国特別支援教育センター協議会 研究協議会（青森県大会）
全体発表・協議

特別支援学級及び通級指導教室 担当教員が抱えている困難について ～ホームページを活用した調査と情報提供～



青森県総合学校教育センター
特別支援教育課

指導主事 森山 貴史

1.実態調査の概要

調査の背景①

初めて特別支援学級・通級指導教室を
担当する教員数

👉 毎年、県全体で...

約 **1000** 名以上

※講座受講者数等からの推定値

調査の背景②



特別支援学級・通級指導教室担当教員

全国的な課題

専門性向上

国

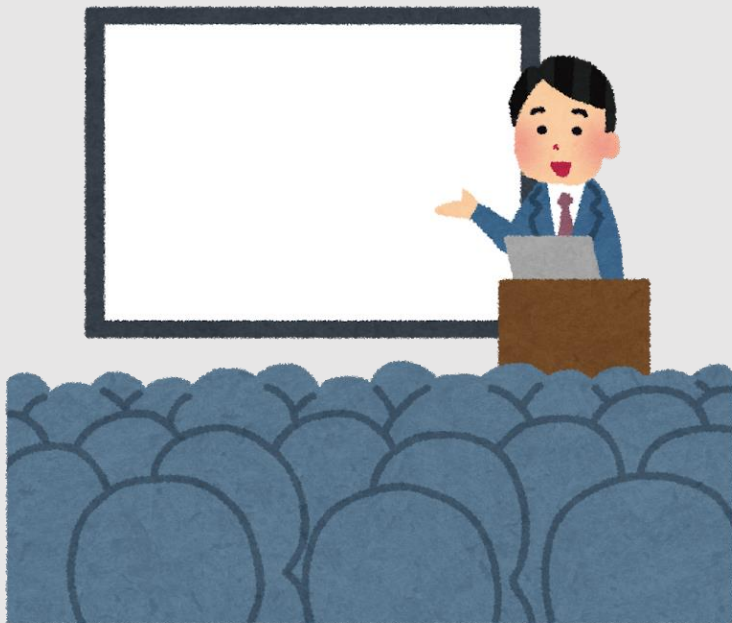
- 特別支援学校教諭免許状の取得率向上
- 国立特別支援教育総合研究所での各研修 他

青森県

- 当センター研修講座、校内研修講師派遣事業
- 教育事務所や地教委による研修 他

調査の背景③

担当1年目



直接対象とする研修講座：



担当2年目以降



直接対象とする研修講座：



ホームページ掲載の研修コンテンツ：



調査の目的

青森県内小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室の担当教員の現状と課題を明らかにする。

※本発表では、調査結果の内、
「**担当教員が抱えている困難**」
に焦点を当てて報告する。

調査方法

対象	青森県内小・中学校の特別支援学級、通級指導教室を担当している教員 (967人)
期間	令和元年 9月30日～11月 8日
手順	<ul style="list-style-type: none">• ホームページを構築している NetCommons の「登録フォーム」モジュールを使用。• 各校には電子メールで依頼し、その中で調査ページのURL、ログインID、パスワードを知らせ、任意で回答を求めた。

調査内容

- 教育課程の編成
- 実態把握
- 個別の教育支援計画
- 個別の指導計画
- 自立活動の指導
- その他、困っていること
 - 日々の指導
 - 保護者との関係
 - 関係機関との連携
 - 進路、将来



個別の指導計画について難しいと感じていること (複数回答可)

	実態把握 やアセス メントの 方法	目標の設定	具体的な 指導内容 の設定	個別の指 導計画を 意識して 授業を行 うこと	個別の教 育支援計 画との関 連	評価	評価結果を 次の授業や 指導に生か すこと	その他	未回答
1～5年 (n=394)	37.3% (147人)	50.5% (199人)	63.2% (249人)	30.5% (120人)	20.3% (80人)	41.4% (163人)	25.9% (102人)	1.8% (7人)	4.6% (18人)
6年以上 (n=340)	27.6% (94人)	44.1% (150人)	50.6% (172人)	35.9% (122人)	22.4% (76人)	38.8% (132人)	28.2% (96人)	1.8% (6人)	7.9% (27人)

1～5年経験者

作成に課題意識

6年以上経験者

活用に課題意識

自立活動について難しいと感じていること

(複数回答可)

	目標の設定	具体的な指導内容の設定	評価	評価結果を次の授業や指導に生かすこと	児童生徒が複数いる時の指導	その他	特になし
1～5年 (n=394)	36.5% (144人)	73.6% (290人)	46.4% (183人)	24.6% (97人)	38.6% (152人)	2.3% (9人)	6.1% (24人)
6年以上 (n=340)	32.4% (110人)	57.4% (195人)	39.4% (134人)	25.0% (85人)	47.1% (160人)	2.1% (7人)	10.3% (35人)

1～5年経験者

指導内容の設定, 評価
に課題意識

6年以上経験者

複数児童生徒の指導
に課題意識

「困りの連鎖」が生じている？

基本的理解

指導の専門性

調整力

校内体制他

教育課程

- 教育課程編成の基本的な考え方
- 児童生徒の実態に応じた教育課程編成

- 児童生徒の実態差・複数学年の考慮
- 知的障害教育独自の難しさ
- 進学を見据えた対応

- 自立活動の時間の確保
- 協力学級との調整
- 新入生への対応
- 教科担当との調整

- 教員等の不足
- 個別指導の必要性

個別の教育支援計画

- 支援計画に関する基本的理解

- 長期目標の設定
- 支援内容の妥当性
- 計画に沿った活用
- 評価方法

- 保護者を意識して情報制限
- 保護者との合意形成
- 保護者面談の負担
- 関係機関との連携
- 引継ぎの問題

- 作成時間の確保
- 様式の問題
- 情報収集

個別の指導計画

- 指導計画に関する基本的理解
- 通級ならでの課題

- 実態把握：時期の問題、実態把握の難しさ
- 目標：目標に対する不安、目標設定の仕方、目標の焦点化
- 指導内容・方法：指導・支援内容の検討、指導・支援の効果
- 学習評価：妥当性、評価より作成に重き、苦労や不安
- 効果的な活用：指導計画の活用、計画に沿った指導

- 保護者との共通理解

- 作成時間の確保・情報共有
- 様式の問題

自立活動

- 自立活動に関する基本的理解
- 指導事例等の参考資料が必要

- 多人数・実態差への対応
- 具体的な指導内容・方法
- 学習評価・指導の評価
- 指導効果の実感
- 教育課程の編成
- 専門的な指導
- 学習への意欲づけ
- 個々の実態に応じた指導内容・方法
- 目標設定
- 計画に沿った指導
- 教材の準備

- 指導時間の確保

※調査結果の詳細は報告書をご覧ください

令和元年度・2年度 特別支援教育課研究

青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導 に関する実態調査報告書



令和2年5月

青森県総合学校教育センター
特別支援教育課



まとめ

1

1～5年経験者と6年以上経験者
では抱えている困難に質的な違い

2

「困りの連鎖」が生じていて、
担当教員のニーズの明確化が課題

3

指導の専門性向上に向けて多様な
アプローチが必要

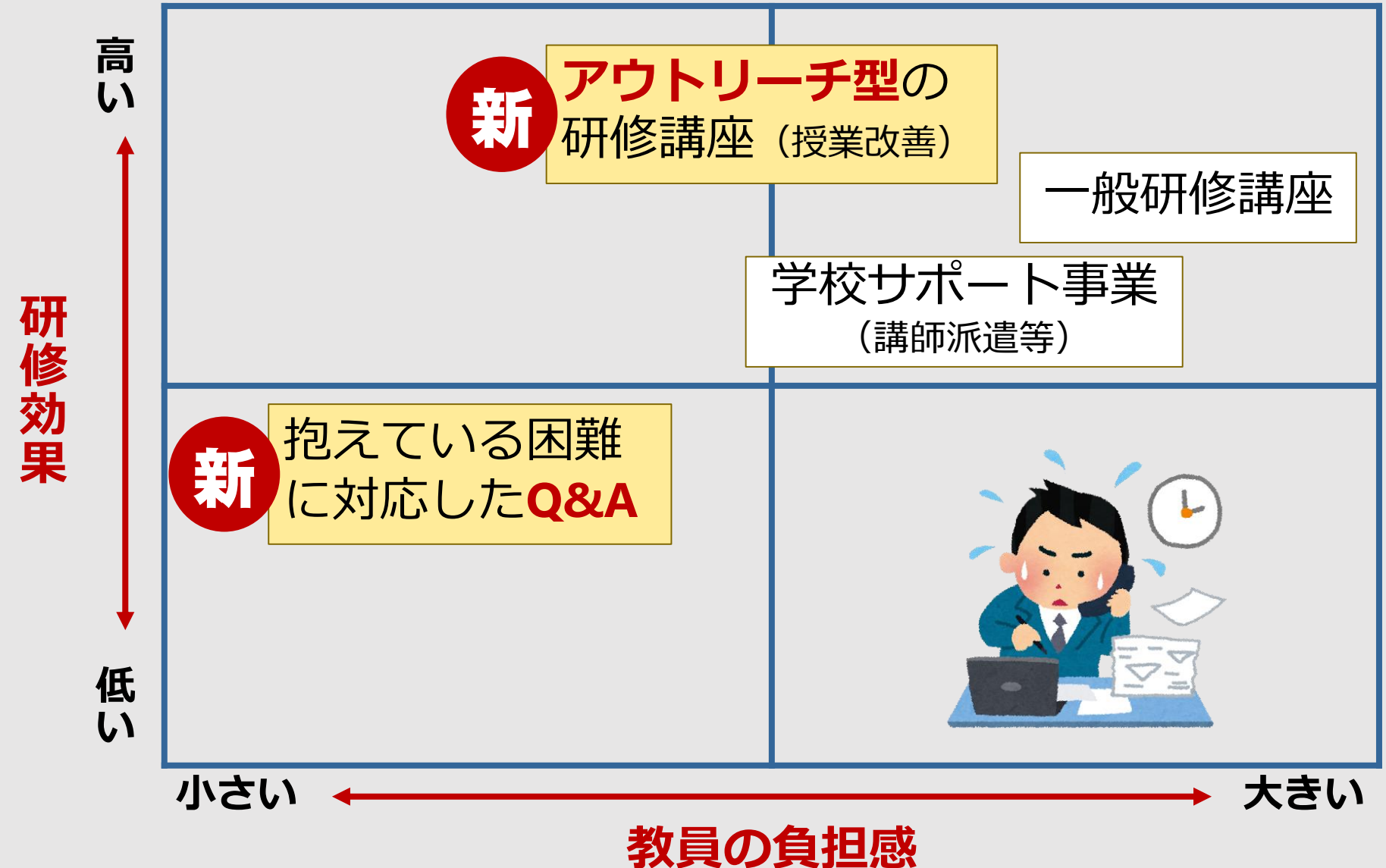
2.調査結果を踏まえた 情報提供（検討中）

特別支援教育を担う教員の専門性の在り方に関する論点(案)

(研修)

各学校の特別支援学級や通級による指導を担当する教師の人数は少なく、研修に参加しにくい環境にある。このため、OJT（On the Job Training：仕事の遂行を通して訓練をすること）による研修体制の構築やオンライン等による多様な研修方法の工夫とともに、「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」等の参考資料の普及を図る必要がある。また、こうした研修に参加しにくい状況にかんがみ、長期休業期間等を活用し、他の学校の特別支援学級や通級による指導を担当する教師と、課題に応じた指導や支援の方法等を、情報共有する機会の充実も期待される。

担当 2 年目以降のフォローアップ



Q&A集のイメージ



“時々サクッと読み返したい”
特別支援学級・通級指導教室の
授業づくりに役立つQ&A **30**

対 象

1～5年経験者

構 成

どこから読んでもOK

情報量

精選してシンプルに

内 容

事例よりも「考え方」

Q 「教科指導」

教科別の指導

- 教科の授業で、複数の学年の子供に対応するためにはどうしたらよいですか？
- 特別支援学級における教科の授業は、教科書を使わずにプリント学習でよいのですか？

合わせた指導

- 生活単元学習では、毎年同じような単元計画となってしまう、学習活動がマンネリ化しがちです。どこから改善したらよいですか？
- 各教科等を合わせた指導は、どのように評価すればよいのですか？

協力学級

- 協力学級で学習するときは、どんな支援や配慮が必要ですか？
- 協力学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？
- 協力学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？
- 協力学級でのテスト実施時における配慮は、どこまで認めればよいのですか？

Q 「自立活動の指導」

指導目標

- 「明日の自立活動の授業、どうしよう…」という日々です。計画的に指導するにはどうしたらいいですか？
- 自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？

指導内容・方法

- 学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？
- 子供の苦手な活動に取り組むとき、参加意欲を高めるためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか？
- 「自己理解」の力を育てたいのですが、どのような指導をすればよいのでしょうか。
- 自立活動の指導と教科指導は、どのように関連しているのですか？
- 高校受検に向けて、教科の補充指導を中心に行っているのですが、これでよいのでしょうか？

評価

- 自立活動の指導の評価は、どのように書いたらいいのかわかりません。

通級

- 通級指導教室での指導を在籍学級でどう生かせばよいのでしょうか？

Q 「指導・支援方法」

環境設定

- 教室の整理、机の配置、机上の整理など、子供が集中しやすい環境の作り方が分かりません。

授業のねらい

- 各授業で、一時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。

教材・教具

- 子供の実態に応じた教材や教具になっているか自信がありません。

指示

- 子供になかなか指示がとおりません。

援助

- どうしても子供に援助し過ぎてしまいます。

賞賛

- 子供をほめるようにしていますが、うまく伝わっていない気がします。

行動への対応

- 子供の不適切な行動にうまく対応できません。

Q 「個別の指導計画」

作成

- 個別の指導計画は、複数の教員で作成した方がよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです。どうしたら効率的に作成できますか？

実態把握

- 発達検査や心理検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？

目標

- 個別の指導計画における長期目標と短期目標のすみ分けがうまくいきません。

手立て

- どのような支援の手立てが効果的なのか判断できません。支援内容・方法について個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？

評価・活用

- 個別の指導計画の評価の時期はいつがいいですか？
- 個別の指導計画の評価（指導の成果）を保護者にどのように説明すればよいのでしょうか？

3.協議したいこと

研究成果物をHPで公開後、活用を推進したり、フィードバックをもらって更新したりするために、どのような工夫が考えられるか。

(例) SNSの活用、オンライン研修

抱えている困難
に対応した**Q&A**

高い

低い

小さい

大きい

教員の負担感

研修効果